

  2022-23 年度 RI テーマ IMAGINE ROTARY 国際ロータリー会長 ジュニア・ジョーンズ	<h1>Weekly Bulletin</h1> <h2>藤枝南ロータリークラブ 会報</h2> <p>例 会：毎週金曜日 会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30 T E L：054-641-3321</p> <p>事務局：藤枝商工会議所内 T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000 E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp</p> <p>2022-23 年度 会長：樽井 勉 副会長：渡邊博文 幹事：鈴木寿幸 副幹事：富澤賢一</p>
--	---

例 会 第 1 4 7 9 回 通常例会/小杉苑

ソング 君が代、奉仕の理想 : ソングリーダー 数野晴紀君

■ 会長挨拶

樽井勉君



みなさん、こんにちは。

本日、森下傑君が入会して定員の 50 名となりました。

私が、森下君の推薦者なので本人の紹介をさせていただきます。

森下君は、「江川卓」の名前のように、卓越した「卓」ではなく、傑出した「傑」という漢字の「すぐる」です。

常に高い目標を持ち、そこに向かって突き進んで行くという、傑出した行動力を持っている、昭和最後の 1988 年生まれ、サッカー育ちの体育会系の男です。

20 歳で結婚し、21 歳で親となり、25 歳で家を建て、27 歳で創業者として起業、今年で 7 年目 34 歳を迎えました。

付き合いは、5 年程前に遡ります。私は、高洲の「すずよし」という寿司屋が、行きつけで、カウンター奥の「指定席」で吞んでいました。入り口側のカウンター隅で、若者が一人で淡々と酒を吞んでいました。トイレに行った戻り際に、「兄ちゃん、お酒強いねえ」「ええ、お酒好きっすよ。」の

会話で一緒に飲んだのが始まりでした。その後は、バーベQで吞む、山奥で泊まって吞む等して現在に至ります。

「富士山を登った人でないとわからない事がある。会社も同じ」の言葉で、様々な事を吸収しようとロータリークラブに入会してきました。さらなる高みに向けて、藤枝南ロータリークラブが推進力となるよう願っています



新会員 森下傑君

樽井会長から紹介してもらい今回ロータリークラブに入会した 株式会社スルガ設備 森下傑です。

まだまだ青二才の人間なので皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

お酒を一緒に飲める事を楽しみにしています。

よろしく申し上げます！！



出席報告

古川賢吾君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
42/50 84%	36/49 73.46%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○池ヶ谷君○稲葉君○川口君○桑原君○鈴木健君
○中村君○森竹君 阿井君

(2)メイクアップ者

漆畑雄一郎君(奉仕作業) 早川清人君(島田)
山田壽久君(静岡西) 渡辺哲朗君(藤枝)
渡邊芳隆君(藤枝)

スマイルBOX

古川賢吾君

・誕生日プレゼント有難うございます。

9月19日の敬老の日に町内会からお祝いの赤飯をいただきました。この事を喜ぶべきか、悲しむべきか、気持ちが複雑です。

伊藤恒夫君

・先月は結婚記念の品ありがとうございました

伊藤彰彦君

・結婚記念、女房の誕生日のお祝いありがとうございました。

飯田敏之君

・結婚記念日のプレゼントありがとうございました「あともう少しガンバッテ」と言われているので長生きできるよう努力します。

淵脇一啓君

・妻の誕生日プレゼントありがとうございました

富澤賢一君

・11月3日RLIのテストミーティングを今朝知りました。11月3日結婚記念日を会場に来て思い出しました。気を付けたいと思います

中山恵喜君

・妻の誕生日プレゼントありがとうございました
チャンスをうかがい夜間例会にも参加させて下さい。

佐野博己君

スマイル累計額 322,000円



会員卓話



佐野芳正君

会員の皆様は、米山奨学会に一人当たり年間16,000円の寄付をしています。

これが、どのよ

うに活用されているか紹介します。

日本のロータリークラブの創始者、米山梅吉翁の功績を讃えて、1953年「米山基金」を開始しました。東京ロータリークラブの古澤丈作が、「戦後の日本の生きる道は平和しかない」として、海外から優秀な学生を日本に招き勉学を支援する奨学金事業を企画し、全国組織に展開していきます。1967年に財団法人を設立し、1971年にカウンセラー制度が設置されます。

最年の当クラブでは、稲葉会員がベトナムのベト君、若林会員がスリランカのチャトラ君のカウンセラーを引き受け、相談役だけでなく各地を案内して日本の紹介をされました。

事業費は年間14億円で、民間奨学事業では国内最大の規模です。奨学生は2021年度910名で、累計22,267名となっています。また、学友会は国内33、海外9と、国際親善に取り組んでいます。今後も、当クラブでもこの制度を活用して奨学生を支援していきましょう。



渡辺哲朗君

今年は肩のケガをして、その治療に明け暮れた一年でした。去年の暮れに、最近やったこと

もない腕立て伏せをやって、身体が上がらないので無理に上げたらグキッと音がして、肩が上がらなくなってしまいました。

近くの病院に行き、MRIの検査をしたら、右肩の腱板が少し断裂していました。しばらく様子を見ていましたが、ある時、孫が駒を回すのが上手くできないので、「こうやってやるだ」と、右手を使って駒を投げたら、またビシッと音がして、ま

た痛めてしまいました。再度 MRI の検査をしたら、3センチ程断裂していたので、手術をする事になりました。

4月頃に市立病院に行きましたが、手術が混んでいて、手術をしたのが6月でした。1月半入院をしてその間、お酒は一滴も飲みませんでした。退院したら敵のように飲もうと思っていましたが、いざ退院してみると、全然お酒を飲む気がしません。体重も5キロ程減って、身体が異常な状態になっていたと思います。1週間位して、ようやくお酒が飲めるようになりました。今は体重も元に戻り、お酒も今までのように飲んでいますが、ただ肩の方はハリハビリが続いて週2回やっていますが、今月から週1回になりました。年内復活を目指して頑張っています。いくら若い気でいても、身体はしっかり年を取っていることがわかりました。

先月、藤枝の大祭はコロナで来年に延期されましたが、島田の大祭は行われました。3年に一度ですので見物に行ってきました。島田の大祭は「帯祭り」とも云われて、江戸時代の元禄の頃に始まり300年以上の歴史があります。これは島田の「大井神社」の祭礼で、「大井神社」は大井川鎮護と安産の神として信仰されています。大井川流域や志太平野には50以上の「大井神社」が分布しています。

「帯祭り」では旧東海道の島田の町が7つの街(がい)に分けられ、1街から5街が5台の屋台を曳き、長唄踊りを披露します。6街は鹿島踊りを、7街は大名行列や大奴を担当します。この「鹿島踊り」と「大名行列」が県の無形民俗文化財に指定されています。そして大名行列の時に、大奴が左右に差した二本の木太刀に、帯を吊るして歩く格好がとてもユニークで珍しいので、「帯祭り」と呼ばれています。

なぜ帯を吊るしたかという、江戸時代から島田宿に嫁いだ嫁さんは、大井神社に安産祈願のお参りをして、晴れ着姿で宿場内を挨拶して廻る風習がありました。しかし宿場がだんだん大きくなって、宿場全体を挨拶廻りするのが大変になってきたので、その代わりとして、お祭りの時に、大奴の木太刀に帯を下げてもらい、宿場全体に披露するようになったと云われています。

江戸時代の島田の宿は、大井川の川越制度で多くの旅人が泊まって、経済的に大いに発展しました。また大雨が降ると川留めで、多くの人が島田宿に滞在し、長逗留した文化人が色々な文化を島

田に伝えたと云われています。また幕府の天領だったので、代官所が置かれていました。そうした島田宿の繁栄を背景に「帯祭り」は発展し、神輿の渡御に、付け祭りとして大名行列、鹿島踊り、長唄踊りの屋台の巡行がセットになって、その規模や内容において全国でも価値のある、上位にランクされる祭礼といっても良いと思います。

島田大祭で長唄踊りが本格的に発展したのは江戸時代で、江戸時代に長唄の家元、2代目吉住小三郎が島田宿で助けられた恩があり、その縁で島田の祭りに出演するようになりました。その後、他の屋台も江戸から長唄芸人を競って招くようになり、それが今日まで続いています。今でも1街は吉住小三郎が出演しています。

藤枝の大祭で長唄踊りが盛んになってきたのは、左車出身の6代目芳村伊十郎が長唄界の第一人者になった明治の終わりから大正時代にかけてのことです。ですので、長唄踊りについては、藤枝よりも島田の方が老舗ということになります。

藤枝大祭は「日本一の長唄地踊り」を謳い文句にしていますが、島田大祭は、屋台の上で子供が躍る上踊りは立派に伝統が守られていますが、地踊りは簡略化されています。東京からの長唄芸人の生演奏は同じですが、藤枝は屋台が14台で長唄の師匠や芸人の数、長唄の曲目数、地踊りの参加者の数で、島田を凌駕しています。

現在、全国の祭礼で「長唄踊り」が行われているのは、島田と藤枝と掛川だけです。東海道の宿場町として、江戸の文化を今に残す貴重な祭礼といっても良いと思います。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
11/11(金) 第1480回	地区大会報告	小杉苑
11/18(金) 第1481回	外部卓話	小杉苑
11/25(金) 第1482回	早朝例会	
12/2(金) 第1483回	クラブ年次総会	理事会

今週の一言

笠原大輔君



私の好物は妻の料理と
 ということであるエピソードを紹介します。おい
 しんぼという漫画に「家
 庭の味は旦那の家庭の
 味と妻の家庭の味から
 自分たちの味を作ることだ」という話があります。
 私の母はしょっぱい味噌汁を作りますが、妻の母
 は薄い味の味噌汁を作ります。結婚当初、足して
 2で割りちょうどいい味の味噌汁ができるかとい
 うと、妻が作れば薄味の味噌汁ができあがりま
 す。そこで私は永谷園のあさげを買ってきて、「こ
 の濃さで味噌汁を作って欲しい」と伝えましたが
 聞き入れられず、味噌汁の濃さをめぐってバトル
 を繰り広げました。

あれから15年、私の家の味噌汁は全て吸い物
 に替わりました。妻は色々な味の吸い物を工夫し
 て作っているので私は満足しています。こんな感
 じで一緒に作り上げてきた家庭の味、妻の料理を
 私の好物としてご紹介させていただきました。



お返しは「お返し」

(担当/杉山君)